

公衆衛生学

基礎科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 秋葉 敏夫

■使用テキスト 清水忠彦, 佐藤拓代著『わかりやすい公衆衛生学 第4版』 ニューヴェルヒロカワ

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

公衆衛生学は「みんなの健康をみんなで守り、向上させるための組織的な営み」といえる。福祉社会の構築を進めていくうえで、人々の健康を守り、増進していくことは基本的な要素となっている。その観点からも、福祉を学ぶものが公衆衛生を学ぶことには大きな意義がある。本講義を受講すれば、公衆衛生学の知識に基づいて、より良い福祉サービスが提供できるような視点を持てるようになるであろう。本講義では特に、予防医学（特に感染症対策、母子保健、学校保健、産業保健）、地域保健行政などの分野での理解が深める。

到達目標

- 1) 公衆衛生の概念を理解できる。
- 2) 公衆衛生と疾病の関係について説明ができる。
- 3) 公衆衛生と様々な制度との関係を述べるができる。
- 4) 人々の健康と様々な公衆衛生活動の関係を説明できる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 公衆衛生とは

この章のポイント

公衆衛生の基本的な概念をまず理解する。さらに健康の概念について学び、健康の成立要因、1次、2次、3次予防についても説明ができることを目指す。プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションについて、両者の違いを理解していく。

第2章 健康と環境、疫学的方法

この章のポイント

健康は環境要因も含めて、多くの要因で成り立っていることに理解を深める。また、疫学は集団を対象にして健康にかかわる要因を解析する重要な手法なので、それについても基本的な考え方と方法を学習する。

第3章 健康の指標

この章のポイント

健康指標とは、集団の健康水準を測定する尺度である。代表的な健康指標について理解を深める。

第4章 感染症とその予防

この章のポイント

感染症の成立要因と伝播様式様式を理解し、その発生予防や蔓延防止の方策について学び、また、代表的な感染症について、流行状況や感染要望対策を学ぶ。

(すべての章を学習するわけではありません)

第8章 地域保健活動

この章のポイント

地域の住民が適切なヘルスサービスを受けることができるために、地域にはどのようなハードウェアとマンパワーが用意されているか、また、その機能を高めるためにどのようなシステムが活動しているかを理解する。

第9章 母子保健

この章のポイント

少子化が急速に進む中で、わが国の母子保健の現状と今後の方向について学んでいく。

第10章 学校保健

この章のポイント

学校保健は公衆衛生の中で重要な位置を占めている。学校保健にはどのような制度があり、わが国の保健対策の中でどのように運用されているかを学ぶ。

第12章 健康教育とヘルスプロモーション

この章のポイント

健康教育とヘルスプロモーションの概念やその取り組みを、具体的な事例を通して学ぶ。

第14章 産業保健

この章のポイント

産業保健は、働く人たちの健康を守ることを目的としている。どのような制度があり、どのような職業病があるかについて理解を深める。

第15章 これからの公衆衛生

この章のポイント

将来の日本社会を展望し、公衆衛生はいかにあるべきかを考察する。